

# HP OpenView Reporter

Microsoft Windows オペレーティング システム

ソフトウェア バージョン : A.03.70

---

DB スキーマドキュメント



## 法律上の注意

### 保証について

日本ヒューレット・パッカート社 (以下、「日本 HP」) は、本書の商用性および特定の用途への適合性について、(黙示的保証も含め、これに限定されることなく) いかなる責任を負うものではありません。また、日本 HP は、本資料の使用に関して、いかなる直接損害、間接損害、特別損害、偶発的損害または結果的損害についても責任を負いません。

ご利用の HP 社製品の保証については、製品販売代理店およびサービス オフィスにお問い合わせください。

### 本書の利用制限

米国政府機関に所属されるユーザーには、DFARS 252.227-7013 の Rights in Technical Data and Computer Software の附則 (c)(1)(ii) で定義される制限が適用されます。

Hewlett-Packard Company  
United States of America

DOD 以外の米国政府の部門または機関の権利は、FAR 52.227-19(c)(1,2) に定められている通りとなります。

### 著作権情報

© Copyright 2006 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

日本 HP 社の書面による許諾なしに、本書の内容をコピー、複製、他言語に翻訳することは禁じられています。本書で提供されている情報は、予告なく変更されることがあります。

### 商標について

Java™ は Sun Microsystems, Inc. の商標です。

Microsoft® は Microsoft Corporation の米国登録商標です。

Windows NT® は Microsoft Corporation の米国登録商標です。

Windows® および MS Windows® は Microsoft Corporation の米国登録商標です。

Netscape™ および Netscape Navigator™ は Netscape Communications Corporation の米国商標です。

Oracle® は Oracle Corporation (カリフォルニア州 Redwood 市) の米国登録商標です。

Oracle7™ は Oracle Corporation (カリフォルニア州 Redwood 市) の商標です。

OSF/Motif® および Open Software Foundation® は Open Software Foundation の米国およびその他の国における商標です。

Pentium® は Intel Corporation の米国登録商標です。

UNIX® は The Open Group の登録商標です。

## ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、次の識別情報が含まれています。

ソフトウェアのバージョン番号。ソフトウェアのバージョンを示します。

ドキュメントの発行日。ドキュメントの更新のたびに変更されます。

ソフトウェアのリリース日。ソフトウェアの今バージョンのリリース日を示します。

最新版の有無や、現在使用中のエディションが最新版かどうかを確認する場合は、次の URL を参照してください。

**[http://ovweb.external.hp.com/lpe/doc\\_serv/](http://ovweb.external.hp.com/lpe/doc_serv/)**

適切な製品サポート サービスに登録して、更新版または最新版を入手することもできます。詳細は、HP の販売代理店にご確認ください。

## サポート

次の HP OpenView サポートの Web サイトを参照してください。

**<http://www.hp.com/managementsoftware/support> (英語)**

**<http://support.openview.hp.com/> (日本語)**

HP OpenView が提供する製品、サービス、サポートに関するお問い合わせ先や詳細をご覧ください。

HP OpenView オンライン ソフトウェア サポートではセルフソルブ機能を提供しています。また、このサイトでは、お客様の業務の管理に必要な対話型の技術支援ツールに素早く効率的にアクセスいただけます。サポートサイトの対象分野は次のとおりです。

目的のマニュアルの検索

オンラインでのエンハンスメント (機能拡張) 要求

ソフトウェア パッチのダウンロード

サポート ケースの登録とトラッキング

サポート契約の管理

HP サポートの問い合わせ先確認

使用可能なサービスに関する情報の確認

他のお客様とのディスカッション

ソフトウェアトレーニングの検索と登録

サポート分野の大部分では、HP Passport へのユーザー登録とログインが必要です。多くの場合、サポート契約も必要です。

アクセスレベルに関する詳細は、次の Web サイトを参照してください。

**[http://www.hp.com/managementsoftware/access\\_level](http://www.hp.com/managementsoftware/access_level)**

HP Passport ID の登録は、次の Web サイトで行ってください。

**<http://www.managementsoftware.hp.com/passport-registration.html>**

# 目次

<b>1 はじめに</b> .....	<b>9</b>
Reporter データベーススキーマ .....	9
このドキュメントの使用方法 .....	9
このドキュメントを使用する際のご注意 .....	9
追加のアプリケーション.....	9
<b>2 コレクション テーブル</b> .....	<b>10</b>
コレクション .....	10
コレクション テーブルの内容 .....	10
コレクション テーブルの使用方法 .....	11
GLOBAL.....	11
GLOBAL テーブルの内容.....	11
GLOBAL テーブルの使用方法.....	12
TRANSACTIONS.....	13
TRANSACTIONS テーブルの内容.....	13
TRANSACTIONS テーブルの使用方法.....	13
APPLICATION .....	13
APPLICATION テーブルの内容 .....	14
APPLICATION テーブルの使用方法.....	14
UPTIME .....	14
UPTIME テーブルの内容 .....	14
UPTIME テーブルの使用方法 .....	15
DOWNTIME.....	15
DOWNTIME テーブルの内容.....	15
DOWNTIME テーブルの使用方法 .....	15
SYSDOWNTIME.....	15
SYSDOWNTIME テーブルの内容.....	15
SYSDOWNTIME テーブルの使用方法.....	16
<b>3 インベントリ テーブル</b> .....	<b>17</b>
インベントリ .....	17
インベントリ テーブルの内容 .....	17
インベントリ テーブルの使用方法 .....	17
SYSTEMS .....	17
SYSTEMS テーブルの内容 .....	17
SYSTEMS テーブルの使用方法 .....	19

DATASOURCES .....	19
DATASOURCES テーブルの内容 .....	19
DATASOURCES テーブルの使用方法 .....	19
GROUPS .....	20
GROUPS テーブルの内容 .....	20
GROUPS テーブルの使用方法 .....	20
CUSTOMER_SYSTEMS .....	20
CUSTOMER_SYSTEMS テーブルの内容 .....	20
CUSTOMER_SYSTEMS テーブルの使用方法 .....	21
<b>4 構成テーブル .....</b>	<b>22</b>
構成 .....	22
構成テーブルの内容 .....	22
構成テーブルの使用方法 .....	22
AUTOGROUP .....	22
AUTOGROUP テーブルの使用方法 .....	22
AUTOGROUP テーブルの内容 .....	22
COMPLETED .....	23
COMPLETED テーブルの使用方法 .....	24
COMPLETED テーブルの内容 .....	24
CONFIG_OPTIONS .....	24
CONFIG_OPTIONS テーブルの使用方法 .....	24
CONFIG_OPTIONS テーブルの内容 .....	24
CUSTOMER_MASTER .....	25
CUSTOMER_MASTER テーブルの使用方法 .....	25
CUSTOMER_MASTER テーブルの内容 .....	25
DATABASES .....	26
DATABASES テーブルの使用方法 .....	26
DATABASES テーブルの内容 .....	26
DISCOVERDOMAINS .....	27
DISCOVERDOMAINS テーブルの使用方法 .....	27
DISCOVERDOMAINS テーブルの内容 .....	27
DISCOVERSYSTEMS .....	27
DISCOVERSYSTEMS テーブルの使用方法 .....	27
DISCOVERSYSTEMS テーブルの内容 .....	28
DLL_VERSIONS .....	28
DLL_VERSIONS テーブルの使用方法 .....	28
DLL_VERSIONS テーブルの内容 .....	28
HOLIDAYS .....	29
HOLIDAYS テーブルの使用方法 .....	29

HOLIDAYS テーブルの内容 .....	29
METRICLISTINFO .....	29
METRICLISTINFO テーブルの使用方法 .....	29
METRICLISTINFO テーブルの内容 .....	30
METRICLISTMETRICS .....	30
METRICLISTMETRICS テーブルの使用方法 .....	30
METRICLISTMETRICS テーブルの内容 .....	30
METRICSPERGROUP .....	31
METRICSPERGROUP テーブルの使用方法 .....	31
METRICSPERGROUP テーブルの内容 .....	31
METRICSPERSYSTEM .....	31
METRICSPERSYSTEM テーブルの使用方法 .....	31
METRICSPERSYSTEM テーブルの内容 .....	31
REPORTDEFINITIONS .....	32
REPORTDEFINITIONS テーブルの使用方法 .....	32
REPORTDEFINITIONS テーブルの内容 .....	32
REPORTFAMILIES .....	33
REPORTFAMILIES テーブルの使用方法 .....	33
REPORTFAMILIES テーブルの内容 .....	33
REPORTSPERGROUP .....	34
REPORTSPERGROUP テーブルの使用方法 .....	34
REPORTSPERGROUP テーブルの内容 .....	34
REPORTSPERSYSTEM .....	34
REPORTSPERSYSTEM テーブルの使用方法 .....	34
REPORTSPERSYSTEM テーブルの内容 .....	35
REPORTSPERCUSTOMER .....	35
REPORTSPERCUSTOMER テーブルの使用方法 .....	35
REPORTSPERCUSTOMER テーブルの内容 .....	35
SCHEDULE .....	36
SCHEDULE テーブルの使用方法 .....	36
SCHEDULE テーブルの内容 .....	36
SHIFT .....	37
SHIFT テーブルの使用方法 .....	37
SHIFT テーブルの内容 .....	37

## 5 データベースの ER 図 .....38





# 1 はじめに

## Reporter データベース スキーマ

このドキュメントは、hp OpenView Reporter 製品の Reporter データベース スキーマについて説明しています。このデータベース スキーマは、次の製品に関連しています。

- 1 hp OpenView reporter
- 2 OpenView Internet services や OpenView operations for Windows など、OpenView 内蔵のレポート作成機能を使用する製品

### このドキュメントの使用方法

このドキュメントは、上級ユーザーを対象に、データの格納に使用するデータベースについて説明するとともに、ベンダーでサポートされている構成以上のカスタマイズを行う場合の方法について説明しています。ベンダーでサポートされている構成については、製品付属のドキュメントを参照してください。

### このドキュメントを使用する際のご注意

変更内容を稼働環境のシステムに適用する前に、評価用システムで十分にテストを行ってください。

データベースにはデータを直接追加しないでください。アプリケーションとデータベースの相互作用については、このドキュメントでは扱いません。また、スキーマに関する知識のみでは、アプリケーションとデータベースの相互作用を予測することはできません。



このドキュメントは、OpenView 製品のサポート以上の構成を必要とするユーザーを対象にしています。そのため、このドキュメントを基に行った変更の結果については、ご自身の責任で処理していただく必要があります。

## 追加のアプリケーション

データのアクセスを強化するため、次のアプリケーションを入手して Reporter データベースとともに使用することができます。

Crystal Decisions 製 Crystal Reports Professional Edition 10

SQL Server 2000 (SQL Server 2000 データベースか、OpenView reporter のデフォルト構成で提供される MSDE データベースを使用する場合)

SQL Server 2005 (SQL Server 2005 データベースか、OpenView reporter のデフォルト構成で提供される MSDE データベースを使用する場合)

Oracle 9i / 10g (ユーザーが Oracle 9i / 10g を使用して Reporter データベースにアクセスする場合)

## 2 コレクション テーブル

### コレクション

コレクションは、収集 (Gather) プロセスにより Reporter データベースに格納されます。通常は Gather.exe ユーティリティまたは GatherCODA.exe ユーティリティにより格納されますが、他の OpenView 製品がデータをコレクションとして格納することもあります。

### コレクション テーブルの内容

コレクションには、パフォーマンス データが格納されます。通常、このデータは OpenView のパフォーマンス エージェントのいずれかから収集されます。すべてのパフォーマンス エージェントのリストについては、HP OpenView Web サイト <http://www.openview.hp.com/> を参照してください。コレクション テーブルとメトリックリストは 1 対 1 で対応し、データ収集に使用されるメトリックリストの名前と、データの格納に使用されるデータベース テーブルの名前は一致します。

コレクション テーブルのフィールド数はテーブルにより異なりますが、最初の 5 フィールドはすべてのコレクションで共通です。これらのフィールドは、コレクション テーブルの格納と保守が適切に行われるために必要なフィールドであり、メトリックリストの一部として定義されるわけではなく、収集ユーティリティにより格納されます。このデータベースの残りのフィールドは、メトリックリストのメトリックとして収集されるデータの結果であり、順序、数、名前、データ型も異なります。しかし、最初の 5 フィールドはすべてのコレクションで同一です。

#### すべてのコレクションに共通のフィールド

列	データ型	説明
ID	AUTONUMBER	ID は、テーブルの各レコードに固有の自動採番フィールドです。
SYSTEMNAME	VARCHAR(200)	SYSTEMNAME は、エージェントから提供されるシステム名です。
DATETIME	DATETIME	DATETIME は、測定インターバルの開始時刻を現地時刻で示したものです。
GMT	DATETIME	GMT は、測定インターバルの開始時刻を世界標準時で示したものです。
SHIFTNAME	VARCHAR(12)	SHIFTNAME は、測定インターバルの開始時刻に相当するシフトの名前です。

ほかにも、パフォーマンス データ コレクションに共通のフィールドがありますが、このフィールドは必ずしも収集されるとは限りません。この列が存在するには、テーブルに対応するメトリックリストに INTERVAL メトリックが含まれていることが必要です。インターバル (INTERVAL) は、データが表す時間の長さを表します。エージェントがアクティブだった時間がインターバルの一部のみの場合、このフィールドの値は通常の数よりも小さくなります。INTERVAL メトリックは、あらかじめ定義されたインターバルの間にエージェントがデータを収集していた時間を秒単位で格納します。1 時間に 1 ポイントを収集するように構成されているメトリックリストの場合、INTERVAL のデフォルト値は 3600 になります。INTERVAL があらかじめ定義され

たインターバルよりも大きい値になるのはごくまれです (たとえば、夏時間で同じ時間が繰り返されたときがこれに該当し、この場合、「7200 秒/時間」になります)。

#### コレクション テーブルの追加フィールド

列	データ型	説明
INTERVAL	INT	INTERVAL は、測定インターバルの時間を秒単位で表したものです。

## コレクション テーブルの使用方法

SYSTEMNAME フィールドは、複数のコレクション テーブルを結合するとき、あるいはコレクション テーブルからデータのサブセットを選択するときに最もよく使用します。DATETIME と SHIFTNAME は、レポートに表示するデータの量を Reporter GUI で絞り込むときに使用できますが、一般に他のテーブルとの結合には使用しません。

他のコレクション テーブルと結合するときは、SYSTEMNAME フィールドどうしをリンクします。GROUPS や SYSTEMS などのインベントリ テーブルと結合するときは、コレクション テーブルの SYSTEMNAME とインベントリ テーブルの SYSTEMID をリンクします。SYSTEMS テーブルのように SYSTEMNAME という名前のフィールドが含まれるインベントリ テーブルであっても、この方法で結合する必要があります。

## GLOBAL

GLOBAL テーブルは、GLOBAL メトリックリストが作成するテーブルであり、OpenView Performance Agent (以前の MeasureWare) と OpenView Operations 内蔵のパフォーマンス コンポーネント (Coda) から GLOBAL クラスを収集します。このテーブルは、システム パフォーマンス メトリックを定期的なインターバルで提供することを目的とし、CPU、ディスク、メモリ、ネットワーク データのデフォルトのレポートで使用されます。

## GLOBAL テーブルの内容

このテーブルには、全コレクション共通の 5 フィールドと、INTERVAL メトリックがあります。さらに、reporter A.03.0x ではデフォルトで 12 種類のメトリックが収集されます。GLOBAL メトリックリストに他のメトリックを追加して、テーブルにフィールドを追加することもできます。エージェントからメトリックが適切に収集されると、データベースに列が作成されます。

#### GLOBAL テーブルのフィールド

列	データ型	説明
GBL_CPU_TOTAL_TIME	FLOAT	CPU がアイドル状態でなかった時間 (秒)
GBL_CPU_TOTAL_UTIL	FLOAT	インターバルの間で、CPU がアイドル状態でなかった時間の割合 (パーセント)
GBL_DISK_PHYS_IO	INT	ローカルドライブ (ネットワーク ファイル システムではない) に対して行われた物理 ディスク I/O 処理の回数

列	データ型	説明
GBL_FS_SPACE_UTIL_PEAK	FLOAT	ローカル システム (ネットワーク ファイル システムではない) でファイル システムの使用率が最も高かったときの、ディスク領域全体に占める割合 (パーセント)
GBL_MEM_PAGEOUT_RATE	FLOAT	ディスクへのメモリ ページアウトの 1 秒あたりの割合
GBL_NET_IN_PACKET_RATE	FLOAT	正常に受信したパケットの 1 秒あたりの割合
GBL_NET_OUT_PACKET_RATE	FLOAT	正常に送信したパケットの 1 秒あたりの割合
GBL_ALIVE_PROC	INT	インターバルの間のアライブ プロセスの数。アライブ プロセスとは、システムに存在するプロセスです。
GBL_ACTIVE_PROC	INT	インターバルの間のアクティブ プロセスの数。アクティブ プロセスとは、システムで CPU リソースを使用するプロセスです。
GBL_STARTED_PROC	INT	インターバルの間に起動されたプロセスの数
GBL_RUN_QUEUE	FLOAT	エージェントのドキュメントを参照してください。
GBL_SWAP_SPACE_UTIL	FLOAT	エージェントのドキュメントを参照してください。
GBL_COLLECTOR	VARCHAR(18)	エージェントのドキュメントを参照してください。

現在 OpenView reporter A.03.01 で収集されるメトリック以外に、以前のバージョンで収集されていた次の 2 種類のメトリックがあります。これらのメトリックは、以前のバージョンの Reporter で作成されたデータベースに存在する可能性があります。

#### GLOBAL テーブルの他のフィールド

列	データ型	説明
GBL_MEM_PAGE_REQUEST	INT	インターバルの間にディスクとの間でやり取りされたページ要求の数
GBL_NET_PACKET_RATE	INT	インターバルの間に 1 秒あたりに正常に送受信されたパケットの数

## GLOBAL テーブルの使用方法

このテーブルの結合全般については、コレクション テーブルのセクションを参照してください。

# TRANSACTIONS

TRANSACTIONS テーブルは、TRANSACTIONS メトリックリストが作成するテーブルであり、OpenView Performance Agent (以前の MeasureWare) から TRANSACTIONS クラスを収集します。このクラスは、現在、OpenView Operations 内蔵のパフォーマンス コンポーネント (Coda) からは収集できません。このテーブルは、ARM トランザクションの監視データを格納するために使用します。

## TRANSACTIONS テーブルの内容

このテーブルには、全コレクション共通の 5 フィールドと、INTERVAL メトリックがあります。さらに、デフォルトで、ARM トランザクション固有の情報が 9 フィールドに格納されます。サポートされている ARM のバージョンによっては、このメトリックを提供するデータソースから可変数の他のメトリックを取得できる場合もあります。TRANSACTIONS メトリックリストに他のメトリックを追加して、テーブルにフィールドを追加することもできます。エージェントからメトリックが適切に収集されると、データベースに列が作成されます。

TRANSACTIONS テーブルのフィールド

列	データ型	説明
TT_NAME	VARCHAR(60)	トランザクション名
TT_APP_NAME	VARCHAR(60)	トランザクション アプリケーション名
TT_COUNT	INT	インターバルの間に完了したトランザクションの数
TT_WALL_TIME_PER_TRAN	FLOAT	トランザクション時間の平均 (秒)
TT_ABORT	INT	中止されたトランザクションの数
TT_ABORT_WALL_TIME_PER_TRAN	FLOAT	中止されたトランザクションのトランザクション時間の平均 (秒)
TT_SLO_COUNT	INT	完了したトランザクションの中で、サービスレベル目標に達していないトランザクションの数
TT_SLO_PERCENT	INT	完了したトランザクションの中で、サービスレベル目標に達していないトランザクションの割合 (パーセント)
TT_SLO_THRESHOLD	FLOAT	サービスレベル目標 (秒)

## TRANSACTIONS テーブルの使用方法

このテーブルの結合全般については、コレクション テーブルのセクションを参照してください。

# APPLICATION

APPLICATION テーブルは、エージェントの parm ファイルに記述されているアプリケーション パフォーマンスに関する情報を格納します。

## APPLICATION テーブルの内容

このテーブルには、全コレクション共通の 5 フィールドと、INTERVAL フィールドがあります。さらに、デフォルトで 6 種類のメトリックが収集されます。APPLICATION メトリックリストに他のメトリックを追加して、テーブルにフィールドを追加することもできます。エージェントからメトリックが適切に収集されると、データベースに列が作成されます。

APPLICATION テーブルのフィールド

列	データ型	説明
APP_NAME	VARCHAR(20)	アプリケーションの名前
APP_CPU_TOTAL_TIME	FLOAT	このアプリケーションのために CPU がアクティブだった時間の合計 (秒)
APP_DISK_PHYS_IO	INT	このアプリケーションで実行された I/O 処理の合計数
APP_MEM_VIRT	INT	インターバル終了時点でこのアプリケーションで使用されていた仮想メモリの量 (KB 単位)
APP_ALIVE_PROC	INT	インターバルの間のアライブ プロセスの数
APP_ACTIVE_PROC	FLOAT	アプリケーションにアクティブ状態だった時間帯の合計時間 (秒)
APP_COMPLETED_PROC	INT	

## APPLICATION テーブルの使用方法

このテーブルの結合全般については、コレクション テーブルのセクションを参照してください。

## UPTIME

UPTIME テーブルは、OpenView reporter A.03.01 で追加された新しいテーブルです。このテーブルは、エージェントのアップタイム情報を他のメトリックリストとは別に格納することを目的としています。以前のバージョンの OpenView reporter は、アップタイムの計算のために GLOBAL メトリックリストと GLOBAL テーブルを使用していました。この方法では、ユーザーが GLOBAL テーブル全体を保持したいと思う時間の範囲内では、エージェントのアップタイム データを保持できませんでした。

## UPTIME テーブルの内容

このテーブルには、全コレクション共通の 5 フィールドと、INTERVAL フィールドがあります。INTERVAL フィールドは、長い期間にわたってエージェントのアップタイムを格納するために使用します。エージェントのアップタイムの計算は、どのメトリックリストの INTERVAL フィールドでも可能だったと思われませんが、アップタイム計算専用のメトリックリストを別に使用することで、他のメトリックリストの RETAIN\_DAYS 設定に関係なく、アップタイム データを何日も格納し、レポート作成に使用することができます。

## UPTIME テーブルの使用方法

このテーブルの結合全般については、コレクション テーブルのセクションを参照してください。

## DOWNTIME

DOWNTIME テーブルは、メトリックリストに直接対応しない独自のコレクションです。このテーブルは、UPTIME メトリックリストに関連しており、DOWNTIME テーブルの更新は、Reporter の RepMaint ユーティリティが UPTIME テーブルのデータを使用して行います。計算は、毎晩、データ収集後、レポート作成までの間に行われ、シフトのうち、エージェントがアップ状態またはダウン状態だった時間の長さを表します。データはエージェントを通してしか入手できないため、システムが起動していてエージェントがダウンしている時間を Reporter が判断するのは不可能です。DOWNTIME テーブルはメトリックリストの直接的な結果ではないため、メトリックリストにメトリックを追加してテーブルを拡張することはできません。

### DOWNTIME テーブルの内容

このテーブルには、全コレクション共通の 5 フィールドがあります。DATETIME フィールドは、日付を格納するために使用しますが、シフトは数時間単位であるため、その日の中の時間を示す目的では DATETIME フィールドは使用しません。

DOWNTIME テーブルのフィールド

列	データ型	説明
SHIFTTIME	INT	シフトの存続時間 (分)
DOWNTIME	INT	シフトの間にデータが使用できない時間 (分)

### DOWNTIME テーブルの使用方法

DOWNTIME テーブルは、シフト単位での可用性情報を示すために使用できます。インターバル単位での可用性については、UPTIME テーブルを使用してください。DOWNTIME テーブルは、Agent Uptime (エージェントのアップタイム) レポートを作成するために使用します。

## SYSDOWNTIME

SYSDOWNTIME は独自のコレクション テーブルであり、そのフィールドの一部はメトリックリストに直接関係しています。メトリックリストに直接対応しない計算フィールドも 1 つあります。フィールドの計算は収集時に行われます。

### SYSDOWNTIME テーブルの内容

このテーブルには、全コレクション共通の 5 フィールドがあります。DATETIME フィールドは、日付を格納するために使用しますが、シフトは数時間単位であるため、その日の中の時間を示す目的では DATETIME フィールドは使用しません。

**SYSDOWNTIME テーブルのフィールド**

列	データ型	説明
SHIFTTIME	INT	シフトの存続時間 (分)
GBL_SYSTEM_UPTIME_SECOND	DATETIME	システムのアップタイム (秒)
GBL_BOOT_TIME	INT	システムを最後に起動した時間
SYSDOWNMINS	INT	システムのダウンタイムの合計 (分)

## SYSDOWNTIME テーブルの使用方法

SYSDOWNTIME テーブルは、シフト単位での可用性情報を示すために使用できます。このテーブルは、SYSTEM Uptime (システムのアップタイム) レポートを作成するために使用します。



## 3 インベントリ テーブル

### インベントリ

インベントリは、検出 (Discovery) プロセスにより Reporter データベースに格納されます。通常は Discovery.exe ユーティリティまたは Discover\_ITO.exe ユーティリティにより格納されますが、他の OpenView 製品がデータをインベントリとして格納することもあります。

#### インベントリ テーブルの内容

インベントリは、システムのリストを格納し、各システムの名前と、エージェントが提供したシステム情報、またはユーザーあるいは OpenView アプリケーションによってシステムに起因するとみなされた情報を関連付けます。SYSTEMID フィールドは、すべてのインベントリ テーブルで共通の唯一の列です。

インベントリ テーブルのフィールド

列	データ型	説明
SYSTEMID	VARCHAR(200)	システムの名前

#### インベントリ テーブルの使用方法

SYSTEMID フィールドは、インベントリ テーブルをコレクションやその他のテーブルと結合するために最もよく使用します。インベントリ テーブルの SYSTEMID は、コレクションの SYSTEMNAME に対応しています。コレクションや Reporter データベースの他のテーブルと結合するときには、インベントリ テーブルの SYSTEMNAME は無視してください。

## SYSTEMS

SYSTEMS テーブルは、パフォーマンス エージェントで検出されたインベントリ内のシステムに関する情報を示す主要なテーブルです。

#### SYSTEMS テーブルの内容

SYSTEMS テーブルは、システムが最後に検出された時点でのソフトウェアとハードウェアの情報を格納します。SYSTEMS テーブルに存在するシステム構成のインスタンスは 1 つに限られます。パフォーマンス データのコレクションとは異なり、複数のレコードによる時間的な変化の追跡は行われません。SYSTEMID フィールド以外に、SYSTEMS テーブルには 21 のフィールドが格納されます。

### SYSTEMS テーブルのフィールド

列	データ型	説明
NETWORKID	VARCHAR(50)	システムのネットワーク。一般に、「Microsoft Windows Network」、「ITO」または Null です。
DOMAINID	VARCHAR(50)	システムのドメイン
SYSTEMID	VARCHAR(200)	システムの名前
SYSTEMNAME	VARCHAR(200)	システムのエージェント名
PROXYNAME	VARCHAR(200)	システムのプロキシが存在しない場合は Null
DISCOVERYDATETIME	DATETIME	検出プロセスがこのシステムのデータを最後に更新した時間
OSNAME	VARCHAR(50)	オペレーティング システム名。「NT」、「HP-UX」などです。
OSRELEASE	VARCHAR(50)	オペレーティング システムのメジャー バージョン。NT の場合は「4.0」、HP-UX の場合は「B.11.00」などです。
OSVERSION	VARCHAR(50)	オペレーティング システムのマイナー バージョン。NT の場合は「SvcPk 2」、HP-UX の場合は「A」などです。
MACHINETYPE	VARCHAR(50)	プロセッサのタイプ。「80686」、「9000 PA-RISC」などです。
AGENT	VARCHAR(50)	廃止されました。この列は、プライマリ エージェントの名前を示します。使用可能な全エージェントに関するデータを取得する方法については、DATASOURCES テーブルの説明を参照してください。
CPUS	INT	システムの CPU の数
DISKS	INT	システムのディスクの数
NETWORKS	INT	システムのネットワーク インタフェースの数
MEMORY	INT	システムの物理メモリの容量 (KB 単位)
SWAP	INT	システムのスワップ領域 (KB 単位)
DATASOURCES	INT	プライマリ エージェントから取得できるデータソースの数
GMTOFFSET	INT	システムの現地時刻と GMT との時差 (分)
DSTCODE	INT	システムが DST (夏時間) に準拠しているかどうか
EXCLUDE	INT	システムをデータ収集とレポート作成の対象から除外しなければならないかどうか
ITOAGENT	VARCHAR(50)	廃止されました。この列は、システムのセカンダリ/イベント エージェントです。

列	データ型	説明
IPADDRESS	VARCHAR(40)	システムの IP アドレス。ITO で検出されたシステムを除き、このフィールドは現在使用されていません。
LONGHOSTNAME	VARCHAR(1024)	SYSTEMNAME フィールドの長さが 200 文字を超える場合、このフィールドにシステム名が格納されます (この場合、SYSTEMNAME フィールドには、固有の GUID が使用されます)。システム名が 200 文字未満の場合、このフィールドは使用されません。
OVDATABASE	VARCHAR(1024)	ITO 管理サーバーの名前

## SYSTEMS テーブルの使用方法

グループのシステムに関するレポートを作成するとき、SYSTEMID フィールドを最もよく使用します。システムに関する他のフィールドを使用して、レポートに使用するデータをフィルタリングすることもできます。

## DATASOURCES

DATASOURCES テーブルは、パフォーマンス エージェントを通してシステムから入手できる、存在しうるコレクションに関する情報を格納しています。

## DATASOURCES テーブルの内容

DATASOURCES テーブルには、SYSTEMID フィールドと他の 6 フィールドが格納されています。データソース、クラス、エージェントの可用性により、1 システムに複数のレコードが存在することがあります。

**DATASOURCES テーブルのフィールド**

列	データ型	説明
ID	AUTONUMBER	生成されたレコード ID
SYSTEMID	VARCHAR(200)	システムの名前
DATASOURCE	VARCHAR(50)	データソース名
CLASS	VARCHAR(128)	クラス名
FIRSTTIME	DATETIME	クラスが最初に検出された時刻
LASTTIME	DATETIME	クラスが最後に検出された時刻
AGENT	VARCHAR(50)	クラスを提供するエージェント

## DATASOURCES テーブルの使用方法

単一システムまたはグループのレポートを作成するとき、SYSTEMID フィールドを最もよく使用します。

# GROUPS

GROUPS テーブルには、システムのグループに関する情報が格納されます。

## GROUPS テーブルの内容

GROUPS テーブルには、SYSTEMID フィールドと他の 4 フィールドがあります。

**GROUPS テーブルのフィールド**

列	データ型	説明
ID	AUTONUMBER	生成されたレコード ID
GROUPNAME	VARCHAR(255)	グループの名前
SYSTEMID	VARCHAR(200)	システムの名前
OWNER	VARCHAR(10)	
OWNER_GUID	VARCHAR(200)	

## GROUPS テーブルの使用方法

SYSTEMID フィールドは、一般に、GROUPNAME フィールドと組み合わせて使用します。GROUP テーブルの SYSTEMID と、(インベントリテーブルの) SYSTEMID または (コレクションの) SYSTEMNAME を結合する場合、SQL 文の WHERE 句で GROUPNAME を選択して、グループのシステムのレポートを作成できます。OpenView reporter は、グループ レポートを作成するとき、Crystal Report テンプレートの選択文のデフォルト値を、選択されたグループに自動的に置き換えます。

# CUSTOMER\_SYSTEMS

CUSTOMER\_SYSTEMS テーブルには、顧客とシステムに関する情報が格納されます。

## CUSTOMER\_SYSTEMS テーブルの内容

CUSTOMER\_SYSTEMS テーブルには、SYSTEMID フィールドと他の 2 フィールドがあります。

**CUSTOMER\_SYSTEMS テーブルのフィールド**

列	データ型	説明
ID	INT	生成されたレコード ID
CUSTOMER_NAME	VARCHAR(50)	顧客の名前
SYSTEMID	VARCHAR(200)	システムの名前

## CUSTOMER\_SYSTEMS テーブルの使用方法

SYSTEMID フィールドは、一般に、CUSTOMER\_NAME フィールドと組み合わせて使用します。CUSTOMER\_SYSTEMS テーブルの SYSTEMID と、(インベントリテーブルの) SYSTEMID または (コレクションの) SYSTEMNAME を結合する場合、SQL 文の WHERE 句で CUSTOMER\_NAME を選択して、顧客の所有するシステムのレポートを作成できます。OpenView reporter は、顧客のレポートを作成するとき、Crystal Report テンプレートの選択文のデフォルト値を、選択された顧客に自動的に置き換えます。

## 4 構成テーブル

### 構成

構成データは、ユーザーが Reporter GUI から直接 Reporter データベースに入力するか、RepLoad ユーティリティと SRP ファイルにより間接的に入力されます。

### 構成テーブルの内容

構成テーブルは、OpenView reporter に関する情報を格納しています。

### 構成テーブルの使用方法

一般に、構成テーブルはレポート作成時には使用しません。構成テーブルは、OpenView reporter 製品で使用するためのものであり、スキーマはユーザーに公開されない形で変更される可能性があります。

## AUTOGROUP

AUTOGROUP テーブルは、グループの自動作成に使用されるルールを格納しています。AUTOGROUP テーブルの各行は、1 つのルールに対応しています。

### AUTOGROUP テーブルの使用方法

検出アプリケーション (Discovery、Discover\_ITO、Discover\_Neutron) は、AUTOGROUP テーブルの基準に従ってシステムをグループに割り当てます。

### AUTOGROUP テーブルの内容

検出アプリケーション (Discovery、Discover\_ITO、Discover\_Neutron) は、AUTOGROUP テーブルの基準に従ってシステムをグループに割り当てます。AUTOGROUP テーブルは、この情報を格納するために全部で 23 のフィールドを使用します。

AUTOGROUP テーブルのフィールド

列	データ型	説明
ID	AUTONUMBER	生成されたレコード ID
DESCRIPTION	VARCHAR(50)	自動グループ ルールの説明
GROUPNAME	VARCHAR(255)	グループの名前

列	データ型	説明
ALLTRUE	BIT	基準のいずれかを満たせばよい (F) か、すべて満たさなければならない (T) かを示すブール値
NETWORKID	VARCHAR(255)	ネットワークと照合するパターン
DOMAINID	VARCHAR(255)	ドメインと照合するパターン
SYSTEMID	VARCHAR(200)	システム名と照合するパターン
SYSTEMNAME	VARCHAR(200)	エージェントが提供する短いシステム名と照合するパターン
PROXYNAME	VARCHAR(255)	プロキシと照合するパターン
OSNAME	VARCHAR(255)	OS と照合するパターン
OSRELEASE	VARCHAR(255)	OS リリースと照合するパターン
OSVERSION	VARCHAR(255)	OS バージョンと照合するパターン
MACHINETYPE	VARCHAR(255)	マシン タイプと照合するパターン
AGENT	VARCHAR(255)	エージェントと照合するパターン
CPUS	VARCHAR(50)	CPU の数と照合するパターン
DISKS	VARCHAR(50)	ディスクの数と照合するパターン
NETWORKS	VARCHAR(50)	ネットワーク インタフェースの数と照合するパターン
MEMORY	VARCHAR(50)	メモリの容量と照合するパターン (KB 単位)
SWAP	VARCHAR(50)	スワップ領域の容量と照合するパターン (KB 単位)
DATASOURCES	VARCHAR(50)	データソースの数と照合するパターン
GMTOFFSET	VARCHAR(50)	タイムゾーンと GMT との時差と照合するパターン (分)
ITOAGENT	VARCHAR(255)	ITO エージェントと照合するパターン
IPADDRESS	VARCHAR(255)	IP アドレスと照合するパターン
DATASOURCE	VARCHAR(255)	データソースと照合するパターン
DATACLASS	VARCHAR(255)	データクラスと照合するパターン

## COMPLETED

COMPLETED テーブルには、Reporter スケジューラ (Scheduler) で実行されたタスクの結果が格納されます。

## COMPLETED テーブルの使用方法

COMPLETED テーブルは、Completed Activities (完了した処理) レポートで実行されるような、スケジュール設定されたタスクの成功/失敗の報告に使用できます。

## COMPLETED テーブルの内容

COMPLETED テーブルを更新するのはスケジューラのみです。スケジュール設定されたタスクでレポートを作成中の場合、レポート作成を制御するタスク (RepCrys など) は、レポート作成が行われている間、実行中のタスクとして表示されます。レポートが完成すると、この情報は古くなります。したがって、実行中のタスクを除外することをお勧めします。COMPLETED テーブルでは、タスクに関する情報を格納するために 8 フィールドを使用します。

COMPLETED テーブルのフィールド

列	データ型	説明
ID	AUTONUMBER	生成されたレコード ID
STARTTIME	DATETIME	タスクの開始日時
STOPTIME	DATETIME	タスクの終了日時
RUNSECONDS	INT	終了までのタスクの実行時間 (秒)
PROGRAM	VARCHAR(50)	プログラム名
PARAMETERS	VARCHAR(255)	コマンドライン パラメータ
STATUS	INT	プログラムの終了ステータス
SPECIAL	INT	予約フィールド

## CONFIG\_OPTIONS

CONFIG\_OPTIONS テーブルには、OpenView reporter で使用されるその他の設定が格納されます。

## CONFIG\_OPTIONS テーブルの使用方法

CONFIG\_OPTIONS テーブルは、ユーザーが選択した設定やレポート パッケージによる設定を報告するために使用します。

## CONFIG\_OPTIONS テーブルの内容

CONFIG\_OPTIONS テーブルには、Reporter GUI の [オプション] ダイアログ ボックス ([ファイル] → [構成] → [オプション]) の内容が格納されます。さらに、[レポート パッケージ] ダイアログ ボックス ([ファイル] → [構成] → [レポート パッケージ]) でスナップインされたパッケージに関する情報も、このテーブルに格納されます。



**CONFIG\_OPTIONS テーブルのフィールド**

列	データ型	説明
KEY_NAME	VARCHAR(20)	構成オプションの名前
DATA_TYPE	INT	構成オプションの型
DATA_INTVALUE	INT	オプションの型が整数の場合のオプションの値
DATA_STRING	DATETIME	オプションの型が日時文字列の場合のオプションの値
DATA_CHAR128	VARCHAR(128)	オプションの型が整数の場合のオプションの値
DATA_DATETIME	DATETIME	オプションの型が日時値の場合のオプションの値

## CUSTOMER\_MASTER

CUSTOMER\_MASTER テーブルは顧客に関する情報を格納し、OpenView 製品間で共有されます。

### CUSTOMER\_MASTER テーブルの使用方法

CUSTOMER\_MASTER テーブルは、存在する顧客と、顧客に関連する製品に関するレポートを作成するために使用します。

### CUSTOMER\_MASTER テーブルの内容

CUSTOMER\_MASTER テーブルでは、顧客名だけでなく、ディレクトリのアクセスに使用する暗号化された顧客のパスワードも取得できます。英字を伴う 26 個のフィールドは、現在または今後の OpenView 製品に対応しています。

**CUSTOMER\_MASTER テーブルのフィールド**

列	データ型	説明
CUSTOMERID	INT	生成されたレコード ID
CUSTOMER_NAME	VARCHAR(50)	顧客の名前
VIEW_PSWD	VARCHAR(50)	顧客のパスワード
PRODUCT_A	INT	OpenView 製品のインジケータ
PRODUCT_B	INT	OpenView 製品のインジケータ
PRODUCT_C	INT	OpenView 製品のインジケータ
PRODUCT_D	INT	OpenView 製品のインジケータ
PRODUCT_E	INT	OpenView 製品のインジケータ
PRODUCT_F	INT	OpenView 製品のインジケータ

列	データ型	説明
PRODUCT_G	INT	OpenView 製品のインジケータ
PRODUCT_H	INT	OpenView 製品のインジケータ
PRODUCT_I	INT	OpenView 製品のインジケータ
PRODUCT_J	INT	OpenView 製品のインジケータ
PRODUCT_K	INT	OpenView 製品のインジケータ
PRODUCT_L	INT	OpenView 製品のインジケータ
PRODUCT_M	INT	OpenView 製品のインジケータ
PRODUCT_N	INT	OpenView 製品のインジケータ
PRODUCT_O	INT	OpenView 製品のインジケータ
PRODUCT_P	INT	OpenView 製品のインジケータ
PRODUCT_Q	INT	OpenView 製品のインジケータ
PRODUCT_R	INT	OpenView 製品のインジケータ
PRODUCT_S	INT	OpenView 製品のインジケータ
PRODUCT_T	INT	OpenView 製品のインジケータ
PRODUCT_U	INT	OpenView 製品のインジケータ
PRODUCT_V	INT	OpenView 製品のインジケータ
PRODUCT_W	INT	OpenView 製品のインジケータ
PRODUCT_X	INT	OpenView 製品のインジケータ
PRODUCT_Y	INT	OpenView 製品のインジケータ
PRODUCT_Z	INT	OpenView 製品のインジケータ

## DATABASES

DATABASES テーブルには、HP OpenView reporter で使用されるデータベースに関する情報が格納されます。

### DATABASES テーブルの使用方法

DATABASES テーブルは、RepCrys が、レポート作成のために Reporter データベース以外のデータベースにアクセスするときに使用します。

### DATABASES テーブルの内容

DATABASES テーブルには、OpenView reporter でのデータベース名だけでなく、ログイン情報や ODBC DSN の名前も格納されます。

**DATABASES テーブルのフィールド**

列	データ型	説明
DATABASENAME	VARCHAR(50)	Reporter データベースで使用されており、REPORTDEFINITIONS テーブルで定義されているデータベース名
DATABASEUSER	VARCHAR(50)	データベースにログオンするためのユーザー名
DATABASEPASSWORD	VARCHAR(50)	データベースにログオンするための (暗号化された) パスワード
DATABASESERVER	VARCHAR(50)	データベースにアクセスするために構成された ODBC DSN

## DISCOVERDOMAINS

DISCOVERDOMAINS テーブルには、検出範囲に関する情報が格納されます。

### DISCOVERDOMAINS テーブルの使用方法

DISCOVERDOMAINS テーブルは、ドメイン内のすべてのシステムを検出するように Reporter に指示するために使用します。

### DISCOVERDOMAINS テーブルの内容

DISCOVERDOMAINS テーブルには、検出するネットワークとドメインの名前が格納されます。

**DISCOVERDOMAINS テーブルのフィールド**

列	データ型	説明
ID	INT	生成されたレコード ID
NETWORK_NAME	VARCHAR(50)	ネットワークの名前
[DOMAIN]	VARCHAR(50)	ドメインの名前

## DISCOVERSYSTEMS

DISCOVERSYSTEMS テーブルには、検出範囲に関する情報が格納されます。

### DISCOVERSYSTEMS テーブルの使用方法

DISCOVERSYSTEMS テーブルは、単一のシステムを検出するように Reporter に指示するために使用します。

## DISCOVERSYSTEMS テーブルの内容

DISCOVERSYSTEMS テーブルには、ネットワーク名とドメイン名 (指定されている場合) だけでなく、システム ID も格納されます。

DISCOVERSYSTEMS テーブルのフィールド

列	データ型	説明
ID	INT	生成されたレコード ID
NETWORK_NAME	VARCHAR(50)	ネットワークの名前
[DOMAIN]	VARCHAR(50)	ドメインの名前
SYSTEM	VARCHAR(200)	システムの名前

## DLL\_VERSIONS

DLL\_VERSIONS テーブルには、OpenView reporter で使用される実行時環境に関する情報が格納されます。

### DLL\_VERSIONS テーブルの使用方法

DLL\_VERSIONS テーブルには、DLL の有無とそのバージョンに関する情報があります。このテーブルは、主に、OpenView reporter システムのトラブルシューティングと状態の報告に使用します。

### DLL\_VERSIONS テーブルの内容

DLL\_VERSIONS テーブルには、見つかった、または見つからなかったファイルに関する 12 のフィールドが格納されています。この情報の大部分は、Windows エクスプローラでファイルの [プロファイル] メニューを使用して取得できます。

DLL\_VERSIONS テーブルのフィールド

列	データ型	説明
ID	INT	生成されたレコード ID
FILENAME	VARCHAR(40)	ファイル名
FILEVERSION	VARCHAR(64)	ファイル バージョン (ASCII)
BINFILEVERSION	VARCHAR(64)	ファイル バージョン (バイナリ)
PATHNAME	VARCHAR(255)	ファイルのパス
FILETIMESTAMP	DATETIME	ファイル作成日時
DESCRIPTION	VARCHAR(64)	ファイルのプロパティに記されている説明
COMPANYNAME	VARCHAR(64)	ファイルのプロパティに記されている会社名

列	データ型	説明
PRODVERSION	VARCHAR(64)	製品のバージョン (ASCII)
BINPRODVERSION	VARCHAR(64)	製品のバージョン (バイナリ)
LINKTIMESTAMP	DATETIME	ファイルのリンク日時
DISCOVERYDATE	DATETIME	ファイルが見つかった、または見つからなかった日時

## HOLIDAYS

HOLIDAYS テーブルには、スケジュール設定された休日に関する情報が格納されます。

### HOLIDAYS テーブルの使用方法

HOLIDAYS テーブルは、ダウンタイムを計算するときに使用します。

### HOLIDAYS テーブルの内容

HOLIDAYS テーブルには、休日名 (説明内) と休日の日付が格納されます。

**HOLIDAYS テーブルのフィールド**

列	データ型	説明
ID	INT	生成されたレコード ID
HOLIDAYDATE	DATETIME	休日の日付
DESCRIPTION	VARCHAR(50)	休日の説明

## METRICLISTINFO

METRICLISTINFO テーブルには、パフォーマンス エージェントからデータを収集するときに使用されるメトリックリストについての情報が格納されます。

### METRICLISTINFO テーブルの使用方法

METRICLISTINFO テーブルは、データベースへのデータの収集、および関連するテーブルの保守に使用します。

## METRICLISTINFO テーブルの内容

METRICLISTINFO テーブルには、メトリックリストのデータの収集と保守に関連する 5 つのフィールドがあります。

METRICLISTINFO テーブルのフィールド

列	データ型	説明
METRICLISTNAME	VARCHAR(128)	メトリックリストの名前。この名前は、収集したデータを格納するために作成されるテーブルの名前としても使用されます。
DATASOURCE	VARCHAR(50)	デフォルトのデータソース。「*」にするか、名前の一部に「*」を組み合わせることで簡単なパターンマッチングを行うことができます。
CLASS	VARCHAR(128)	メトリッククラスの名前。常にそうとは限りませんが、多くの場合、この名前はメトリックリストの名前でもあります。
SUMMARIZATION	INT	エージェントに集計が要求されるインターバル
RETAIN DAYS	INT	収集したデータを保持する日数。データの DATETIME フィールドが、このフィールドの日数分よりも前の日付になると、データは RepMaint により除去されます。

## METRICLISTMETRICS

METRICLISTMETRICS テーブルには、メトリックリストに関連するメトリックが格納されます。

### METRICLISTMETRICS テーブルの使用方法

METRICLISTMETRICS テーブルは、データの収集時に使用されます。

### METRICLISTMETRICS テーブルの内容

METRICLISTMETRICS テーブルには、メトリックリストと、そのメトリックリストに属するメトリックが含まれます。

METRICLISTMETRICS テーブルのフィールド

列	データ型	説明
ID	INT	生成されたレコード ID
METRICLISTNAME	VARCHAR(128)	メトリックリストの名前
METRICNAME	VARCHAR(128)	メトリックの名前

# METRICSPERGROUP

METRICSPERGROUP テーブルには、メトリックリストとグループの関連付けが格納されます。

## METRICSPERGROUP テーブルの使用方法

METRICSPERGROUP テーブルは、データの収集時に使用されます。

## METRICSPERGROUP テーブルの内容

METRICSPERGROUP テーブルには、メトリックリストとグループの名前が格納されます。さらに、デフォルトのデータソースと、このデータがプロキシシステムのデータかどうかを示すブール値のスイッチが格納されます (プロキシシステムのデータの場合、システム名は別の方法で格納されます)。

**METRICSPERGROUP テーブルのフィールド**

列	データ型	説明
ID	INT	生成されたレコード ID
GROUPNAME	VARCHAR(255)	グループの名前
METRICLISTNAME	VARCHAR(128)	メトリックリストの名前
DATASOURCE	VARCHAR(50)	デフォルトのデータソース。「*」にするか、名前の一部に「*」を組み合わせる簡単なパターン マッチングを行うことができます。
PROXY	BIT	True または False

# METRICSPERSYSTEM

METRICSPERSYSTEM テーブルには、メトリックリストとシステムに関連するメトリックが格納されます。

## METRICSPERSYSTEM テーブルの使用方法

METRICSPERSYSTEM テーブルは、データの収集時に使用されます。

## METRICSPERSYSTEM テーブルの内容

METRICSPERSYSTEM テーブルには、メトリックリストとシステムの名前が格納されます。さらに、デフォルトのデータソースと、このデータがプロキシシステムのデータかどうかを示すブール値のスイッチが格納されます (プロキシシステムのデータの場合、システム名は別の方法で格納されます)。

### METRICSPERSYSTEM テーブルのフィールド

列	データ型	説明
ID	INT	生成されたレコード ID
SYSTEMID	VARCHAR(200)	システムの名前
METRICLISTNAME	VARCHAR(128)	メトリックリストの名前
DATASOURCE	VARCHAR(50)	デフォルトのデータソース。「*」にするか、名前の一部に「*」を組み合わせて簡単なパターン マッチングを行うことができます。
PROXY	BIT	True または False

## REPORTDEFINITIONS

REPORTDEFINITIONS テーブルには、使用可能なレポートに関する情報が格納されます。

### REPORTDEFINITIONS テーブルの使用方法

REPORTDEFINITIONS テーブル

### REPORTDEFINITIONS テーブルの内容

REPORTDEFINITIONS テーブル

#### REPORTDEFINITIONS テーブルのフィールド

列	データ型	説明
REPORTNAME	VARCHAR(50)	固有のレポート名
CATEGORY	VARCHAR(50)	レポートをリンク ページに表示するときの見出し
TEMPLATENAME	VARCHAR(255)	すべてのシステムに関するレポートを作成するときに使用する Crystal Reports テンプレート。ファイル名と、data ディレクトリを基準にした相対パスで構成されています。
GROUPTEMPLATENAME	VARCHAR(255)	グループに関するレポートを作成するときに使用する Crystal Reports テンプレート。ファイル名と、data ディレクトリを基準にした相対パスで構成されています。
SYSTEMTEMPLATENAME	VARCHAR(255)	単一システムに関するレポートを作成するときに使用する Crystal Reports テンプレート。ファイル名と、data ディレクトリを基準にした相対パスで構成されています。



列	データ型	説明
HTMLDIRECTORY	VARCHAR(255)	作成された HTML ページと関連するイメージファイルを格納する出力ディレクトリ。単一システム用のレポートとグループ用のレポートを格納するためにサブディレクトリが作成されます。顧客別レポートは、Webpages ディレクトリ配下のサブフォルダに、顧客名、レポート名、グループ名またはシステム名 (該当するグループまたは単一システムがある場合) の順に分類されて配置されます。
PRINTERNAME	VARCHAR(50)	現時点では使用されていません。
DESCRIPTION	VARCHAR(80)	レポートへのリンクとして表示されるテキスト
DATERANGE	VARCHAR(50)	Reporter GUI で選択された日付範囲。このフィールドが Null の場合、デフォルト値が使用されます。
DATABASENAME	VARCHAR(50)	レポートのデータが格納されるデータベース。詳細は、DATABASES テーブルの説明を参照してください。
SHIFT	VARCHAR(50)	このレポートのすべてのインスタンスに使用されるシフト。詳細は、SHIFT テーブルの説明を参照してください。
PAGE_BREAKS	VARCHAR(1)	レポートを複数のページに分割し、ページ下部にリンクを作成する場合、このフィールドの値は英字の「T」です。
RUNTIME	INT	レポートをタイムアウトにする (強制終了する) までの時間 (分)

## REPORTFAMILIES

REPORTFAMILIES テーブルは、レポートと、レポートを整理して表示するために使用されるレポートファミリーを関連付けます。

### REPORTFAMILIES テーブルの使用方法

REPORTFAMILIES テーブルは、作成されたレポートへのリンクを作成するときに使用されます。

### REPORTFAMILIES テーブルの内容

REPORTFAMILIES テーブルには、レポートと、レポートが所属するファミリーが格納されます。

REPORTFAMILIES テーブルのフィールド

列	データ型	説明
ID	INT	生成されたレコード ID
REPORTNAME	VARCHAR(50)	レポートの名前
FAMILY	VARCHAR(50)	レポートファミリの名前

## REPORTSPERGROUP

REPORTSPERGROUP テーブルは、レポートとグループを関連付けます。

### REPORTSPERGROUP テーブルの使用方法

REPORTSPERGROUP テーブルは、レポート作成時に使用されます。レポートとグループとの間に関連付けがある場合、レポートはそのグループを対象に作成されます。関連付けが見つからない場合、レポートは作成されません。すべてのシステムを対象としたレポートを作成する場合、GROUPNAME を「ALL」にする必要があります。

### REPORTSPERGROUP テーブルの内容

REPORTSPERGROUP テーブルには、レポート名とグループ名が格納されます。

REPORTSPERGROUP テーブルのフィールド

列	データ型	説明
ID	INT	生成されたレコード ID
GROUPNAME	VARCHAR(255)	グループの名前
REPORTNAME	VARCHAR(50)	レポートの名前

## REPORTSPERSYSTEM

REPORTSPERSYSTEM テーブルは、レポートとシステムを関連付けます。

### REPORTSPERSYSTEM テーブルの使用方法

REPORTSPERSYSTEM テーブルは、レポート作成時に使用されます。レポートとシステムとの間に関連付けがある場合、レポートはそのシステムを対象に作成されます。関連付けが見つからない場合、単一システム用のレポートは作成されません。その場合でも、全システムまたはシステムグループ用のレポートにはそのシステムが表示されます。しかし、そのシステム用のレポートのインスタンスが単独で作成されることはありません。

## REPORTSPERSYSTEM テーブルの内容

REPORTSPERSYSTEM テーブルには、レポート名とシステム名が格納されます。

REPORTSPERSYSTEM テーブルのフィールド

列	データ型	説明
ID	INT	生成されたレコード ID
SYSTEMID	VARCHAR(200)	システムの名前
REPORTNAME	VARCHAR(50)	レポートの名前

## REPORTSPERCUSTOMER

REPORTSPERCUSTOMER テーブルは、特定の顧客のために作成する ALL レポートを判別するために使用します。

### REPORTSPERCUSTOMER テーブルの使用方法

ユーザーが Reporter に顧客を作成または追加すると、作成または追加された顧客と、この顧客に割り当てることができるすべてのレポートに対応するエントリがこのテーブルに作成されます。Reporter GUI からレポートをこの顧客に割り当てると、REPORTSPERCUSTOMER テーブルのフラグがオンになり、この顧客を対象にレポートが作成されます。

### REPORTSPERCUSTOMER テーブルの内容

REPORTSPERCUSTOMER テーブルには、顧客名、この顧客に割り当てることができるレポートのリスト、この顧客を対象に生成する ALL レポートを示すフラグが格納されます。

主キーは、CUSTOMER\_NAME と REPORTNAME の組み合わせです。

REPORTSPERCUSTOMER テーブルのフィールド

列	データ型	説明
ID	INT	生成されたレコード ID
CUSTOMER_NAME	VARCHAR (50)	顧客名
REPORTNAME	VARCHAR (127)	レポート名
GENERATE_REPORT	INT	この顧客に対してこのレポートを作成するかどうかを示すフラグ。値 1 は、レポートの作成を示し、値 0 は、レポートを作成しないことを示します。

# SCHEDULE

SCHEDULE テーブルは、Reporter スケジューラのために、スケジュール設定されたタスクを追跡します。

## SCHEDULE テーブルの使用方法

Reporter スケジューラは、SCHEDULE テーブルを使用して、タスクをいつ、どのように実行すべきかを判断します。

## SCHEDULE テーブルの内容

SCHEDULE テーブルには、スケジュール設定されたタスクに関する 10 のフィールドがあります。

SCHEDULE テーブルのフィールド

列	データ型	説明
ID	INT	生成されたレコード ID
JOBTIME	DATETIME	タスクの実行予定時刻
PROGRAM	VARCHAR(50)	実行可能ファイルの名前。環境変数 PATH で指定されたパスにファイルがない場合、ファイルのパスを含めることもできます。パスは、絶対パスか、 <b>data</b> ディレクトリを基準とした相対パスのいずれかです。
PARAMETERS	VARCHAR(255)	スケジュール設定されたタスクを実行するとき使用するコマンドライン パラメータ
LASTTIME	DATETIME	前回のタスク実行時刻
STATUS	INT	実行可能ファイルの戻り値
JOBRESET	INT	タスクの反復間隔
RUNTIME	INT	タスクがタイムアウトになるまでの実行可能時間 (秒)
MAXCONCURRENTPROGRAMS	INT	同時に実行できるプログラムの数。プログラムの同時実行数 (このフィールドの値) が 1 の場合、同時に実行できるのは 1 つに限られます。同時実行数が 2 の場合、2 つのプログラムを実行できますが、他方のプログラムの同時実行数が 1 の場合、そのプログラムとは同時に実行できません。同時実行数が 0 になるのは特殊な場合です。同時実行数が 0 の場合、通常の同時実行数の値は無効になり、実行中の他のタスクに関係なくプログラムが実行されます。
SPECIAL	INT	現時点では使用されていません。

# SHIFT

SHIFT テーブルには、曜日をシフトに分けるために使用されるシフト情報が格納されます。

## SHIFT テーブルの使用方法

SHIFT テーブルは、データベースの保守で収集されたデータに対してシフトを割り当てるために使用します。ダウンタイムの計算にも使用されます。

## SHIFT テーブルの内容

SHIFT テーブルには、シフトの名前、シフトの開始時刻と終了時刻、特定の開始時刻と終了時刻を適用する曜日が格納されます。名前付きのシフトに含まれる曜日には、それぞれエントリが作成されます。名前付きのシフトに属さない時間は、OFFSHIFT の一部になります。1 つのレコードには 1 つのシフトしか適用できないため、Reporter データベース全体に適用されるシフト間で時間が重ならないようにしてください。

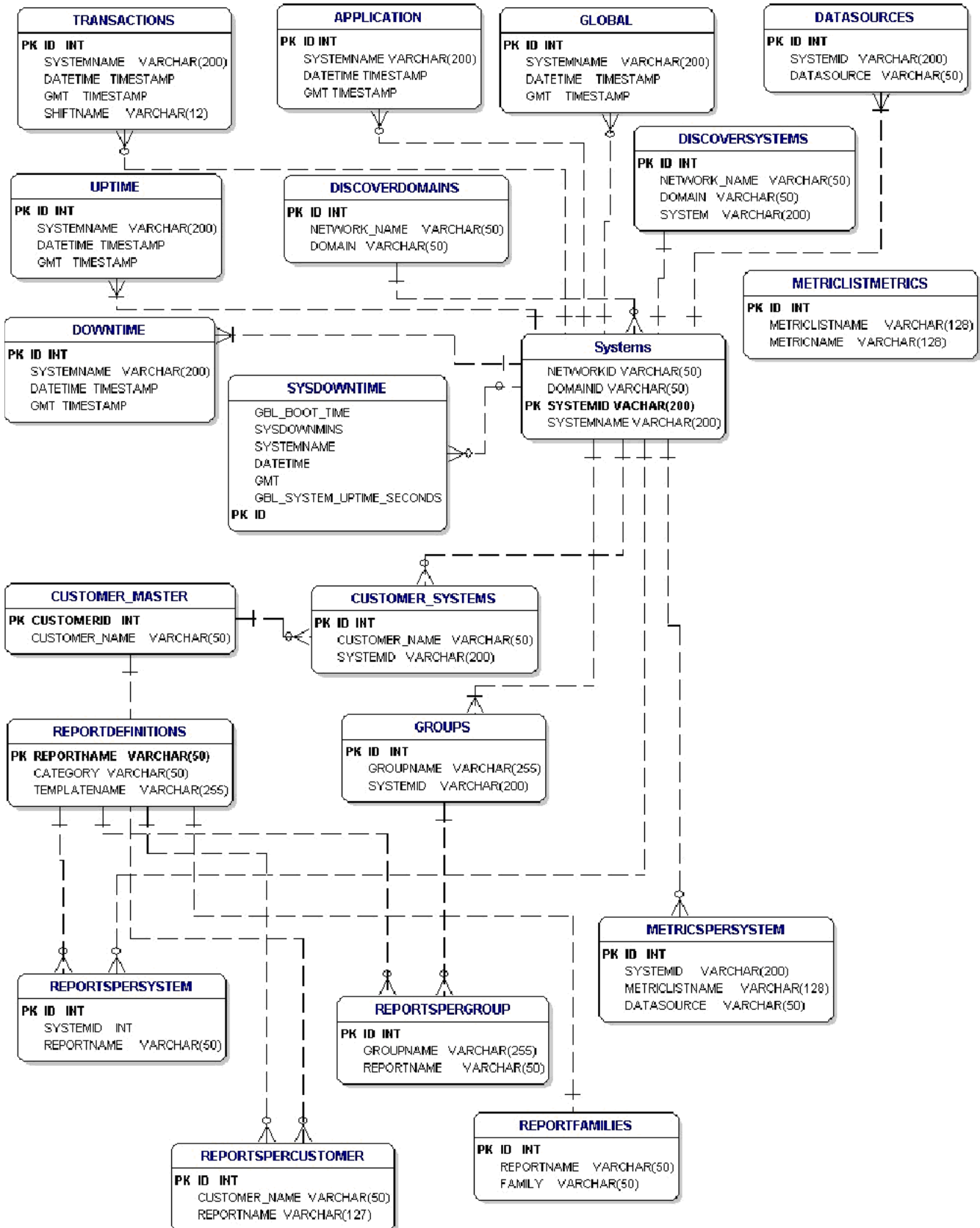
SHIFT テーブルのフィールド

列	データ型	説明
ID	INT	生成されたレコード ID
SHIFTNAME	VARCHAR(12)	シフト名
SHIFTDOW	INT	曜日
STARTTIME	INT	シフトの開始時刻 (午前 0 時からの分数で指定)
STOPTIME	INT	シフトの終了時刻 (午前 0 時からの分数で指定)

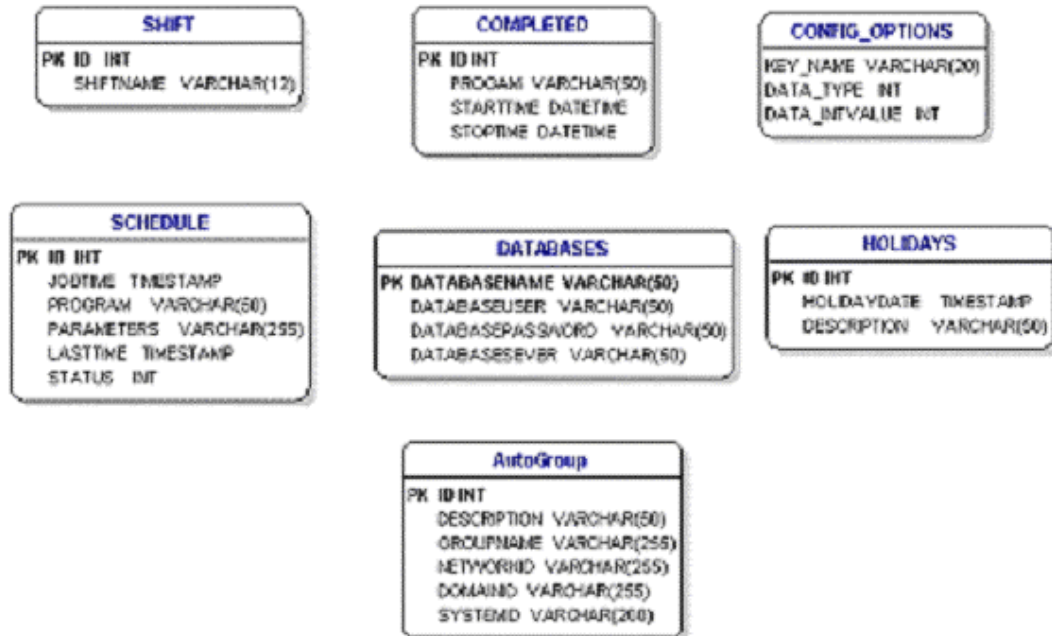
---

## 5 データベースの ER 図

## Reporter データベースにデフォルトでインストールされるテーブル間の関係



## 構成テーブル



メモ :

- APPLICATION、TRANSACTION、GLOBAL の各テーブルが SYSTEMS テーブルに関連付けられるときと同じ方法で、コレクション テーブルはすべて SYSTEMS テーブルに関連付けられます。
- この図に示す関係は、データベースのプロシージャまたはトリガーを経由して適用されるわけではありません。この図からわかるように、テーブルの大部分は自動的に生成された整数値を主キーとして持ち、データの整合性は、これらのテーブルを挿入/削除/更新する Reporter モジュールにより適用されます。